さくら便り

32 号　　令和 4 年 7 月

暑くなりました。今の時期、色で言いますと緑が連想されます。境川堤も緑一色となりました。5 月にアダプトで草刈りをして頂いたのですが、雑草の生命力は凄いですね。雑草が育つという事は、土地が肥え、桜にも良いと諦めるしかありません。桜よ育て！頑張れ！

（散歩の友）　今回は津島神社の境内にある大八嶋稲荷神社について書かせて戴きます。大八嶋（大八島・大八洲）は日本列島の事であり、社殿はなく、山林そのものがご神体です. 大八嶋社の本山は、伏見稲荷大社（京都）の北東、八島ヶ池（おさんば池）の近くにあります。稲荷神社の総本山は伏見稲荷大社です。711 年の創建。「お稲荷さん」として庶民の間では人気があります。稲荷神社は奈良時代、秦氏（渡来系）の氏神で、穀霊神・農耕神として崇められていました。秦氏の勢力拡大の過程で、穀霊神「宇迦之御魂神」（うかのみたまのかみ)と結びつき、中世･近世に商工業など諸産業の神へと拡大していったと思われます。今では芸能上達・麻雀・煙草屋の神としても崇められています。稲荷神社は全国に 4～5 万あるといわれています。稲荷社の特徴は、何と云ってもいくつもある赤い鳥居です。鳥居は祈りと感謝の念を表し、信仰する人が奉納するものです。奉納は江戸時代以降の事です。春日大社の石灯籠の奉納と同じ意味でしょうか。赤色（朱色）は生命・大地・生産の力を象徴するもので、稲荷の神様の御霊の働きを表すものと信じられていました。又、朱一腐蝕を防ぐ聖なる呪物といったことが伝えられています。次にお稲荷さんには狐がつきものです。狐は稲荷神の神使（従者）といわれています。狐を稲荷の神使とする民間信仰はウカノミタマの別名をミケツノカミという事から、そのケツから、狐の古名ケツが想起され、三狐神（ミケツカミ）の字を充てたことに由来します。又、穀物を狙うネズミを狐が退治したことからという説もあります。因みに、伏見稲荷大社に鳥居を寄進するのに、安くて 20 万ぐらいかかります。何年も順番を待っているとの事。世の中ひろいですね。私もお金をためて寄進すれば良い事あるかな。神社は桜とは縁がないようです。

（ホームページ）

パソコン　https://gifutakatamachi.ne.jp/wp/

スマホ・タブレット

桜を愛する会